

令和5年度研究推進計画

1 研究主題

子供たちが主体的につながり合い、いじめのない支え合う学級づくり

2 主題設定の理由

近年、子供たちの人間関係力の低下が課題となっている。スマホやゲームの普及による引きこもりや群れで遊ぶ子供が減ってきていること、ICT機器導入により増えた一人学び、さらに拍車をかけているコロナ下でのグループ活動の制限や黙食、静かな学びなど、子供たちは今、自由に伸び伸びと活発に人と関わるのが抑制された環境の中に置かれている。

本校でも友達関係をうまく作れなかったり、集団の中うまく適応できなかったりして不登校を選択している児童がいる。また、考えや意見の異なる友達との合意形成の知識・技能を持ち合わせていなかったり、思いやりに欠けた言動で友達を傷つけたりする中でいじめにつながってしまった事例も見られた。さらに、自分たちの学校・学級集団を協力してよりよくしていこうとする主体性にも課題がある。

以上のような児童の実態に対して、子供たちが主体的につながり合い、育ち合う関係性を築いていく力を育てていくことは喫緊の課題である。

3 実践研究の進め方 学級力向上プロジェクトの実践

- (1) 学習指導要領「特別活動」が目指す目標や学級力向上プロジェクトの理解
- (2) R-PDCAサイクルでの学級力向上プロジェクトの実践と評価
 - ① 学級力アンケートの実施（診断）
 - ② 児童のアクションプランの話合い（計画）
 - ③ アクションプランの実践（実施）
 - ④ 学級力アンケートの実施（評価）
 - ⑤ 児童のアクションプランの話合い（改善・計画）

4 その他の研修

- (1) 学力向上のために昨年度から取り組んできた「問いと振り返りに焦点を当てた主体的な学習態度の育成」については継続的に実践研究を進め、研究授業を通して研修を深める。
- (2) 一般研修は、各教科・領域部からの希望をもとに計画する。
- (3) 夏季休業中の研修は、昨年度の実績をもとに研修枠を設定しているが、予定として計画する。